

## 調整上の注意とお願い

- 荷重ブレーキの調整は必ず行なってください。
- 荷重ブレーキの調整後は必ず装着者にブレーキの効き具合を確認してください。
- 空圧シリンダの調整後は装着者に歩行速度を変化させて歩行確認をしてください。
- 同梱の「高性能空圧膝継手 NK-1H アンケート」にお答えいただき、返送していただきますようよろしくお願い致します。

## 高性能空圧膝継手



## 取扱説明書



お問い合わせ先

**ナブテスコ株式会社**

住環境カンパニー 福祉事業推進部

〒658-0024 神戸市東灘区魚崎浜町 35  
TEL. 078-413-2724 FAX. 078-413-2725  
URL : <http://welfare.nabtesco.com>

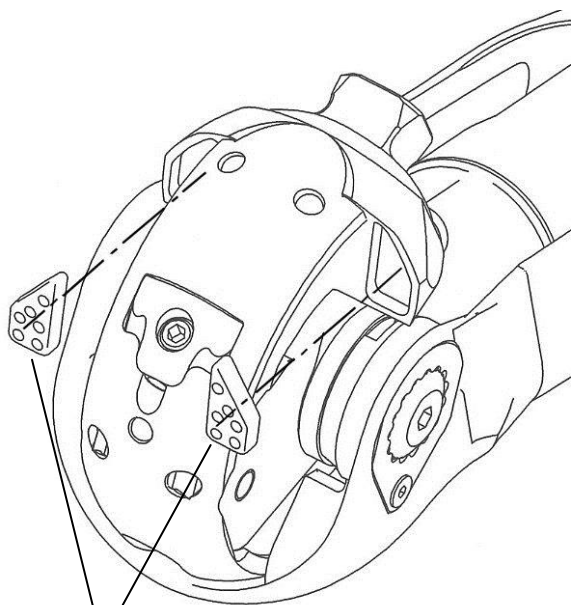


## 9. 伸展ストッパーゴム交換要領

交換作業は次の手順で行なってください。

(図10参照)

- ① 膝を曲げ、伸展ストッパーゴムを取り出してください。
- ② 新しい伸展ストッパーゴムを差し込んでください。また、図のように突起がある面を外側にして両面テープで貼り付けて固定して下さい。
- ③ 膝の曲げ伸ばしを行ない、異常が無いか確認してください。



伸展ストッパーゴム

図10. 伸展ストッパーゴム交換

## 1. ご使用にあたって

高性能空圧膝継手 (NK-1H) は荷重ブレーキ付の空圧式単軸膝継手です。



ご使用される前に、この「取扱説明書」と別冊「ご使用の手引き」の取扱い上の注意をお読みの上、正しくお使いください。



この取扱説明書に記載されている内容は、本製品の仕様、各部調整要領及び、部品交換要領です。



お読みになったあとは、大切に保管してください。

## 8. 膝軸ガタ発生時の調整要領

### 膝軸のガタ調整について

膝軸にガタが発生した場合は、下記の調整要領（1～4）にしたがって図5の歯付止めボルトを締め込むことにより、膝軸のガタを解消できます。

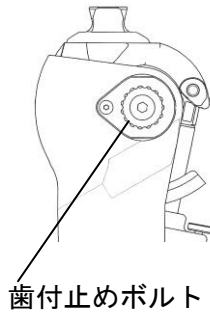


図5.

### 調整要領

- 1) 歯付止めボルトの回転位置の目安とするため、回り止めネジと接している歯付止めボルトの谷にマジックなどで印をつけます。（図6参照）
- 2) 六角レンチ（1.5mm）を使用し回り止めネジをはずします。（図7参照）

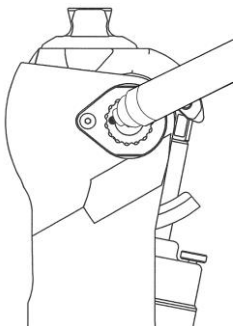


図6.

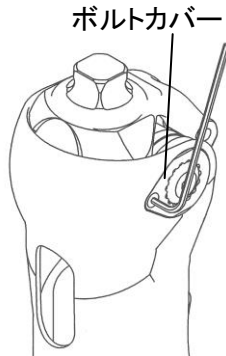


図7.

- 3) 六角レンチ（4mm）を使用し歯付止めボルトを1山締め込み、ガタの有無を確認します。ガタが解消されない場合は、さらに締め込んでください。ただし、締め込みすぎると、屈曲伸展時の抵抗が大きくなりますので、注意してください。（図8参照）

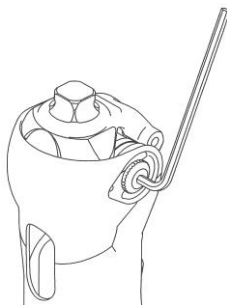
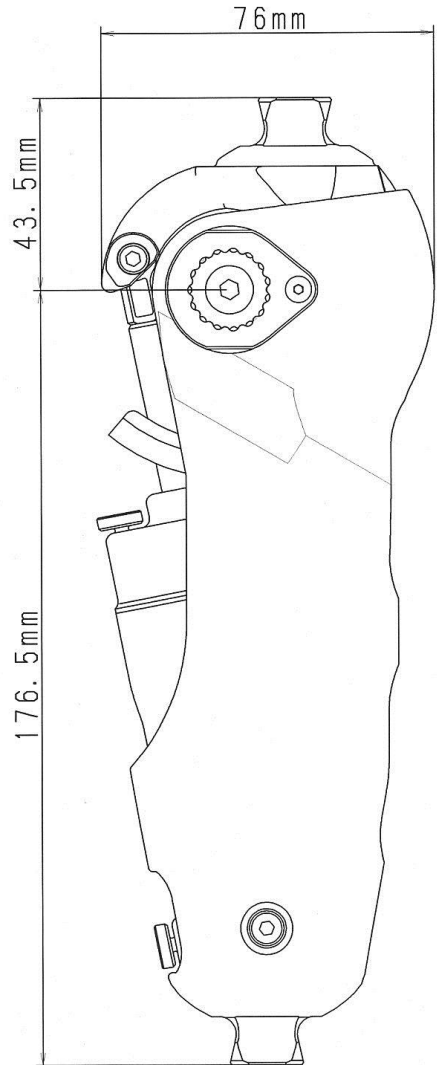
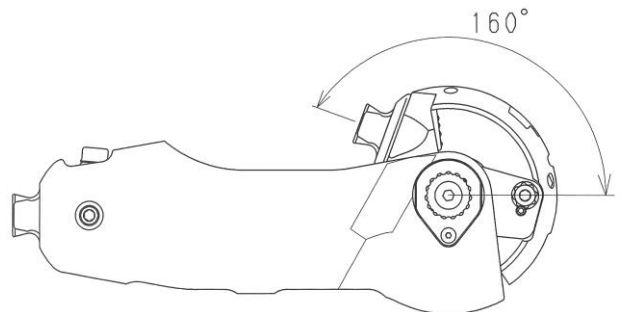


図8.



外観寸法



最大屈曲時

# 7. 構成部品図

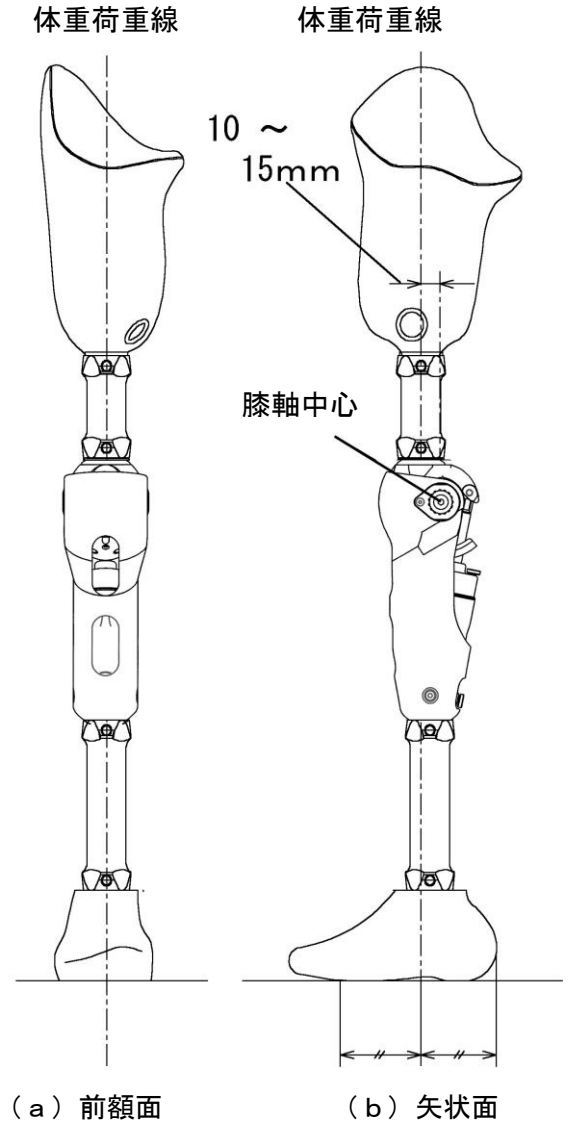
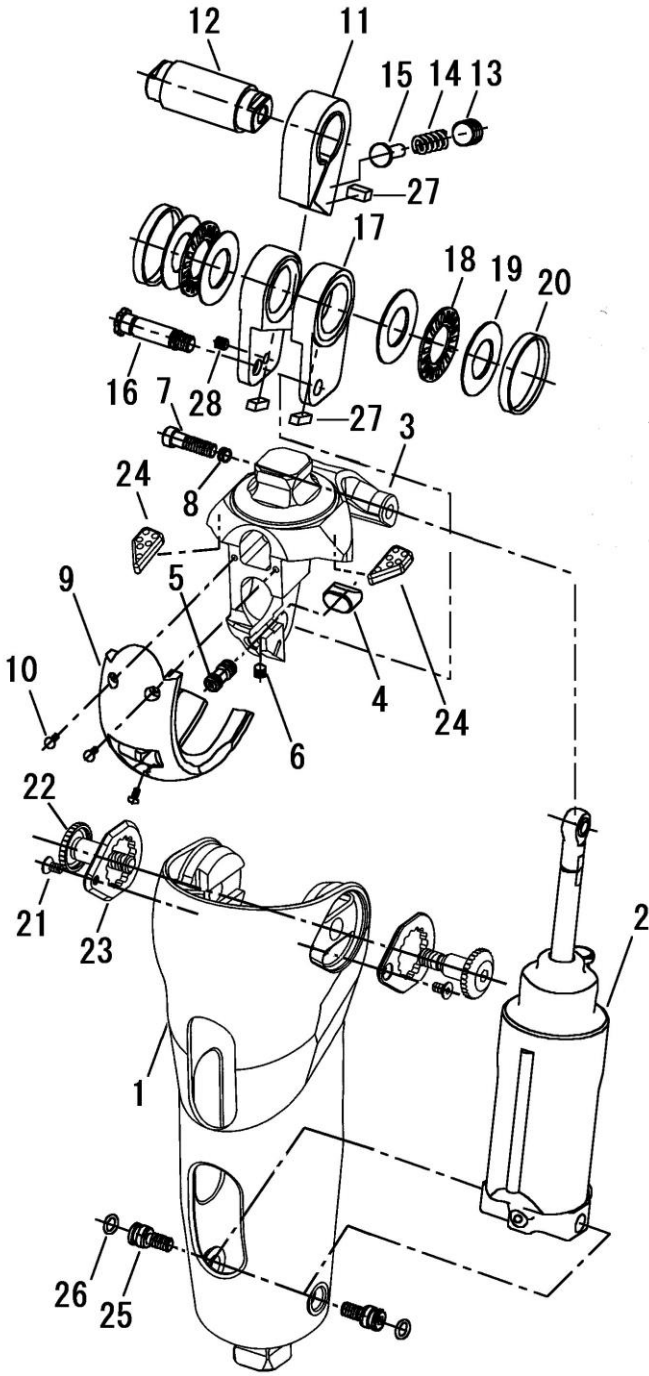


図1. 基本アライメント

# 6. 空圧シリンダ調整要領

空圧シリンダの調整は、下記要領に従って行なってください。(図4参照)

尚、調整にあたっては試歩行の出来る距離(5m以上)を確保して下さい。

## 1) 膝の屈曲制限と振出し速度の調整

### ① ゆっくり歩きの調整

メインバルブ(MV)により調整します。(使用工具:六角レンチ2mm)

・ゆっくり歩いて違和感がないように調整バルブMVを左右に回して調整します。

⇒バルブを右に回すとシリンダの反発は強くなります。左に回すと反発は弱くなります。

この場合、バルブの目盛2~3目盛を目安に調整して下さい。

※目盛の初期設定は15です。“0”が反発力最大、“20”が反発力最小となります。

### ② 普通歩き、速歩きの調整

アシストバルブ(AV)とメインバルブ(MV)により調整します。

(使用工具:六角レンチ2mm)

・普通の歩行速度、又は速い歩行速度において膝の振出しに遅れがある場合は、アシストバルブ(AV)を右に回して下さい。但し早歩きには限度がありますので、もっと早く歩きたい場合はメインバルブ(MV)を2~3目盛づつ右に回して調整して下さい。⇒この場合、反発力は全体に強くなりますので好みの位置に調整して下さい。

※AVの初期設定は7です。“0”が反発力最大、“20”が反発力最小となります。

通常は目盛3~10の設定が目安となります。

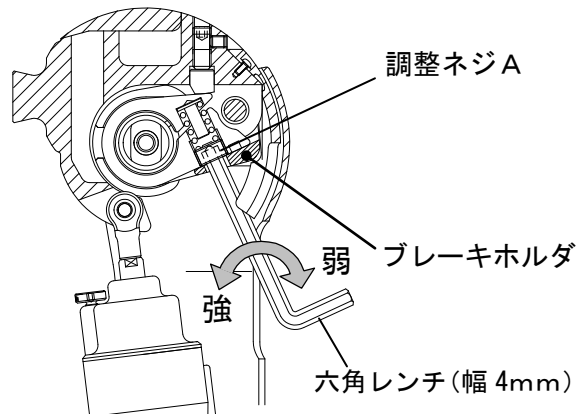
MV値より低い設定値にしないと歩行速度変化に追従しにくくなります。(MV値>AV値)

注)・設定値を“0”にすると膝の屈曲抵抗は増加しますが、屈曲から伸展に移行する時に膝の振り出しに遅れ感が出る場合があります。

# 【必ず調整してください】

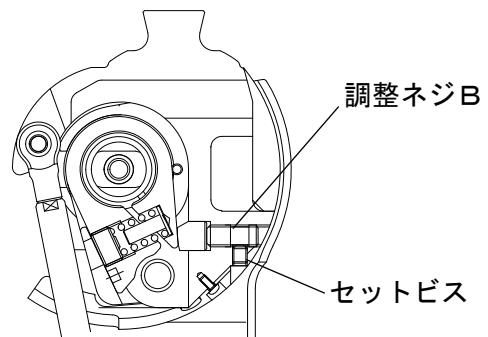
- ・軸スキマを詰め過ぎて膝がロックした場合、パイプアダプタ等でピラミッド部を固定して、これを引張りながら膝を屈曲させるとロックが解除されて膝が回転します。

調整終了後、セットビスに接着剤(ロックタイト#242相当品)を塗布して、確実に緩み止めを行なってください。(締付トルク:1.8~1.9N・m [18~19kgf・cm])



**【注意】**  
●調整ネジAはブレーキホルダにあたることにより抜け止めとなっています。さらに反時計回りに回すことは絶対におやめください。膝の回転がロックまたは重くなり、その状態で使用を続けると破損の原因になります。

図2. 荷重ブレーキ調整要領



**【注意】セットビス**  
●締付トルク:1.8~1.9N・m [18~19kgf・cm]  
●ロックタイト#242相当品塗布

図3. 荷重ブレーキ構造